

中日新聞 令和3年10月22日掲載（※この記事は、中日新聞社の許諾を得て転載しています）

不法係留船対策で成果

浜名湖総合環境財団 30周年節目祝う

浜名湖を利用する船舶の安全確保や湖面の適正利用促進に取り組む公益財団法人「浜名湖総合環境財団」が二十一日、浜松市西区の伊佐見公共マリーナで、設立三十周年記念式典を開いた。船舶関係者ら八十人が集い、これまでの財団の活動を振り返りながら、記念の節目を祝った。

財団は、一九九一年に県や周辺自治体、船舶関連事業者が出資し設立された。八〇年代のマリンレジャーブームで船舶を利用する人が増える中、水路標識の設置などを進め、航行の安全とマナー向上の啓発に取り組んできた。

九六年の調査で約六千五百隻の不法係留船が確認されたが、公共係留施設の整備をしたことで、現在ほとんど解消され、全国でも有数の成果を上げている。

記念式典では、阿部正義理事長が「三十年にわたり支えてくれた皆さまに敬意を表したい。これからも豊かな自然と美しい浜名湖を守っていく」と述べた。

これまでの活動に貢献したとして、浜名漁業協同組合、県マリーナ協会西部支部、財団の徳田晴紀常務理事に感謝状が贈られた。

（中田弦）

財団 年記

記念式典で関係者に感謝を述べる阿部正義理事長（浜松市西区の伊佐見公共マリーナで）

